なめがたでキラリ輝く「ひと」

小田（おだ） 忠勝（ただかつ）さん（70歳）

Profile

タクシー運転手。昭和41年から継続して献血を続けた。先月、献血定年である70歳の誕生日前に最後の献血を行った。今後は、広く献血事業に協力したいと考えている。島並在住。

「父は本当にすごいと思う」と、長男の忠義さん（左）。この日、サプライズでお祝いに駆けつけた長女の智子さんと共に3人で献血をした＝つくば市吾妻

「全国献血刺し歩き」。そう書かれた分厚いアルバムを手にする小田忠勝さんは、約50年間をかけて、800回を超す献血を続けてきました。

初めての献血は、県立麻生高校3年生のとき。最初は興味本位でしたが、高校卒業や関東鉄道への就職などの節目に、記念として献血を行っていました。

転機を迎えたのは、就職して数年後の帰宅途中、スリップしてきたトラックと衝突するという交通事故に遭ったこと。

「トラックがぶつかってきてからの記憶が無いんだ。翌朝、意識が戻ったときは病院のベッドの上で、ろっ骨が6本折れていた。『ああ。生きていた。私は生かされているんだ』と感じて、自然と感謝の気持ちが生まれた」と話す小田さん。このことをきっかけに、「生かされていることに感謝し、自分の健康を誰かに分けたい」という思いで献血を続けてきました。

平成6年からは、かねてからの趣味である巡礼と合わせて、休日に全国各地で献血する旅を開始。地元での献血を重ねながら、1年に4件の献血ルームを訪ねることを目標に、「刺し歩き」してきました。

その中でも忘れられないのが、平成9年10月の親子3人での広島県の旅。「娘と息子と並んで献血を果たせたことが何よりうれしかった」。この全国各地での献血は、平成23年4月の長崎県で完結。ついに全47都道府県を制覇しました。

「少しでも献血のPRになればと思ってね。献血ルームで気づいたことがあれば、関係者に提案したり、各地の献血推進大会にも出席したよ。血液が不足している状況が少しでも改善できるよう、役に立ちたかった」と、これまでの記録を保存したアルバムを片手に笑顔の小田さん。「この旅を続けられたのも、毎回笑顔で送り出してくれる妻の理解があったからだなあ。家族には本当に感謝している」と、ちょっぴり照れくさそう。

献血ができる上限年齢は69歳。6月7日に70歳を迎えた小田さんは、6月5日に、つくば献血ルームで最後の献血を終えました。

「感無量。これから献血できなくなるのは、定年退職したときより寂しいよ。本来は飽きっぽい性格なのに、よくここまで続いた。献血できる健康な体に生んでくれた両親にも感謝している。若い人に血液不足の現状を知ってもらい、少しでも献血する人が増えてくれたらとしみじみ思うよ。血液は人の体でしか作れないから、ぜひ多くの人に協力してほしい」と、目を潤ませながら話してくれました。

日本赤十字社によると、特に若い世代の献血者が減少傾向にあり、新鮮な血液を安定して供給するためにも、日々の献血者が必要であるといいます。小田さんは、「私はもう献血できないけれど、これからも仕事を続けながら、献血活動への協力をしていきたいと思っているよ」と新たな目標に向かって、明るい笑顔を見せてくれました。

スマホで読める！ 市報なめがた　デジタルブック配信開始！

○ブラウザでもアプリでも、スマホやタブレットで読める
○7言語で読める
【日・英・中（簡体）・中（繁体）・韓・タイ・ポルトガル語】
○音声読み上げもできる　○文字サイズを調整できる

Delivering e-book in English
电子书籍以中文简体字发布
電子書籍以中文繁體字發布
한국어전자전송중
ในระหว่างการ จัดส่ง หนังสือดิจิตอล
Entregar e-book em Português

無料　FREE APP
▲このアイコンが目印

※ブラウザ版は音声読み上げには対応しておりません。音声読み上げには、無料アプリ（カタポケ↗）のインストールが必要です。

市報行方第143号（平成29年7月1日発行）■発行・編集　行方市政策秘書課　〒311-3892 茨城県行方市麻生1561-9 ☎（0299）72-0811 Fax（0299）72-2174 ■URL http://www.city.namegata.ibaraki.jp ■E-mail name-koho@city.namegata.lg.jp